一誌一句（受贈誌４・５月号他より）

米田　透　抄出

篠揺れて鎌倉古道春浅し　（　樹　）　丹羽　真一

何を問うても「別に」と応ふ受験の子　（となりあふ）　箭内　忍

寒あかね日々新しく老いて行く　（遊　牧）　塩野谷　仁

もうおやすみここからは明日の私が考える　（青　穂）　小山　貴子

アドリブが春風になる駅ピアノ　（　蛮　）　鹿又　英一

野豌豆小蜘蛛遊ばせ咲いてをり　（年　輪）　坂口　緑志

隙間風隙間の形に入りくる　（煌　星）　石井いさお

令和時代の産めよ増やせよこどもの日　（からまつ）　石川　春兎

告げるひとなし春星へ独り言つ　（初　蝶）　中山　和子

嫁入り舟通ひし川の水温む　（水　明）　山本鬼之介